

富江

○春暮るる昭和朝ドラテーマ曲

○遠き日の穴に待てまで汐干狩

○父と行きし記憶は薄れ潮干狩

弘

墓六つの里の鶯まだ鳴けり

夏近し平成の世よグッドバイ

探りあての子の得意顔潮干狩

文子

○ブランチの皿は空色夏近し

○父と行きし記憶は薄れ潮干狩

丞子

○潮干狩り指から海を零しつつ

新入生つかれも背負うランドセル

抜けきらぬ味と砂噛む汐干狩

夏近しランドセルの子の自立心

農子

郁代

○おひさまと遊ぶ時間や夏近し

樟の花雨や雫や夏近し

時雨ありや潤い足れば夏近し

初江

○灯台の風の鼓動や夏近し

汐干狩母を呼ぶ声迷子の子

渦潮の白き波頭や風光る

郁子

汐干狩携帯電話滑り落つ

芸人の派手なシャツより夏来たる

帰路のバス沈黙は金汐干狩

四方の山初夏の光に山ゆらぐ

夕子

靴脱けば砂こぼれ出る汐干狩

雑草の伸びる早さよ夏隣る

○まっ先に夏めく君の上腕筋

○植林を拒む山桜の宇宙

万貴

道彦

○視・聴・覚外し蛙の目借時

散りぎわの木立をくぐる初つばめ

夏蜜柑胸いっぱいの香りかな

保明

○夏めくやもうはるかなり樺美智子

潮干狩自死せし友といった海

うたかたの夢を紡いで花筏

味元 昭次 作品

潮干狩ゴツと昭和に突き当たる

父親は欠伸噛み殺す潮干狩

野球少年サッカー少年夏近し



佐和子

○潮干潟に残る足跡茜空

○花卯木看護学校一年生

髪を切る少女の首に夏近し

○潮干狩辺りに誰もいなくなり

鯉の恋川ざわめきて夏近し

真ん円の平成最後の月朧

○夏近し玄関に娘の白い靴

昔日の開けたグラウンド潮干狩

園庭の藤の花房投票所

○忘れ潮覗けば遥かなる記憶

○春風や海岸線を島のバス

夏近し果汁ゼリーの離乳食

